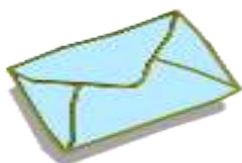


全国保健師長会
群馬県支部 **ミニつうしん**
平成30年度 第1号

発行日

平成30年8月15日

支部長 神山 智子



支部長あいさつ

支部長 神山 智子

会員の皆様には、日頃より全国保健師長会群馬県支部の活動にご協力いただき感謝しますとともに、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

今年は、渋川での地震、大阪での地震に加え、西日本大豪雨による未曾有の被害があり、群馬県においても前橋市、高崎市の皆様と一緒に広島県坂町への保健師派遣を行っているところです。現地に赴いている方、留守を守り業務を行ってくださっている方、状況を気にして心を寄せてくださっている全ての方々に感謝を申し上げます。また、亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに被害に遭われた方にお見舞いを申し上げます。

さて、平成30年6月2日、群馬県庁で行われました全国保健師長会群馬県支部総会では、昨年度の活動報告として、1月27日に日本看護協会保健師職能委員長中板育美氏による人材育成に関する研修会で保健師としての視点の大切さを改めて学んだことを報告しました。

また、平成30年度全国保健師長会40周年記念で作成されたスライドショーを放映し、私たちの仕事の原点を見つめ直す機会となりました。このスライドショーは広報委員の高崎市前田恵子さんが才能を発揮した力作であることを、40周年記念事業特別委員の群馬県保健師からご紹介がありました。機会がある度に皆で視聴したいと思います。

研修会では、厚生労働省医政局総務課長（前保険局国民健康保険課長）榎本健太郎氏を講師に「国保制度改革と保険者機能の強化～保健師に期待すること～」と題してご講演をいただきました。プロとしての悩みの種とするべき情報と示唆をいただき、群馬県の「伸び代」に向けた今後の取組へのスイッチを押していただいたように感じます。

今年度の群馬県支部の活動としては、第2回研修会を、「アンガーマネジメント」をテーマに開催します。私たちは、日々、自分の価値観と違う相談や理不尽に感じる事柄とも向き合って地道に活動を続けています。そんなとき私たち自身の心の持ちようをどうしたらよいか等の内容の講演を計画しています。

全国保健師長会の動きとしましては、7月14日に東京の日本公衆衛生協会にて北関東・甲信越ブロック支部長会議が行われました。4月28日の理事会・講演会の報告があり、ブロック活動の計画、研修会の報告事例の選定等の準備を行いました。

9月29日には、新潟市でブロック研修会が行われ、前橋市から事例発表をいただく予定です。近県での開催であり、他県の取組を勉強する良い機会でもありますので、会員の皆様には是非ご参加いただきたいと思っております。

11月10日には、愛知県名古屋市で全国保健師長会代議員総会が行われます。

最後になりますが、例年になく酷暑の中、地球環境の変化への対応が必要になるなど、次々におこる新しい課題に柔軟に対応していくため、全国保健師長会及び群馬県支部の活動が少しでも皆様のお力になりますよう、本会の活動の発展に会員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

平成30年度全国保健師長会活動テーマ

健康危機管理への対応や、虐待防止対策、自殺予防対策、生活習慣病対策、さらには地域包括ケアシステムの構築など、不確実性の高い課題にこそ地域特性に応じた専門性の高い活動が求められています。

全国保健師長会は、今年度で発足40周年を迎えますが、引き続き公衆衛生看護活動の使命を全国の会員と確認・共有し、『保健師活動の原点から住民とともに創る未来』をめざすため、保健医療福祉や産業、教育分野などの多様な機関との連携を強化し、各ブロック活動の充実強化や研究的な取組の推進を図ることにより、次世代を担う保健師の成長を支援しながら、全国の保健師のつながりを強化していきます。

“未来を創造する公衆衛生看護活動の展開”

ーみる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来～ー

- 1 専門性の高い公衆衛生看護活動の強化
- 2 ブロック、支部活動の強化
- 3 各自治体における災害時対策の取組の促進と被災地における保健師活動の発信
- 4 会員数の拡大（詳細は全国保健師長会ホームページをご覧ください）

※今年度の支部活動では、右記を実施、計画しています。

今年度も、本部からの情報提供やお願いメールの送信等最新情報をお伝えしていきます。会員の皆様のご意見をいただきながら支部活動を進めていきますので、よろしくお願いいたします。



◆ 9月29日（土）

全国保健師長会北関東・甲信越ブロック研修会
新潟市保健所

「みる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来～」をテーマに開催

◆ 11月10日（土）

全国保健師長会代議員総会
愛知県名古屋市「アイリス愛知」

◆ 第2回研修会

12月1日（土）午前10時～11時30分
ぐんま男女共同参画センター 大会議室

テーマ：「対人援助職のアンガーマネジメント」

講師：ぐんま学園 園長 稲岡隆之氏

総 会 報 告

平成30年度全国保健師長会群馬県支部総会

日時：平成30年6月2日（土）13時30分～

場所：群馬県庁291会議室（29階）



6月2日（土）に平成30年度全国保健師長会群馬県支部総会を開催しました。

当日の出席者は会員55名で、平成29年度事業報告、会計報告、会計監査報告、平成30年度事業計画、予算が承認されました。

総会後の研修会は、厚生労働省医政局総務課長（前保険局国民健康保険課長）榎本健太郎氏より、「国保制度改革と保険者機能の強化」～保健師に期待すること～と題して、ご講演いただきました。71名の参加がありました。

研修会に参加された会員から、感想を寄せていただきました。

一 研修会に参加しての感想 一

市町村保健師

私にとって新しいことづくめでスタートした30年度、厚生労働省医政局総務課長の榎本健太郎先生による「国保制度改革と保険者機能の強化」の講演ということで大変興味深く聴かせていただきました。先生は今年3月まで国民健康保険課で国保制度改革に関わり、その前は介護保険計画課での仕事など厚生労働省関連行政に精通された方であり、私たち保健師への期待を込めてお話をいただきました。今回の研修時間内では話しきれない多くの資料を携え、現代の社会情勢を踏まえた国の方向性や全国自治体の実情に加え、関わったからこそ感じ考えた言葉も添えられ、今の時代に現場の保健師がどのように考え仕事をしていくべきかを考えさせられるものでした。

30年度からの国保制度改革の概要は、医療費増大に対応する制度安定化のために、都道府県が責任主体となり財政運営や効率的な事業の確保等に中心的な役割を担うが、実際のところは地域住民と身近な関係である市町村がきめ細かい事業を引き続き担うというものでした。財政安定化への期待をしつつ、医療費のファイナンスに加え、庁内横断的な連携の下で被保険者の健康づくりや地域づくりなど、そもそも医療費を必要としないような体質をつくることが市町村に求められるということが強調されました。

詳細まで伝えきれませんが、印象に残った言葉として、PDCAサイクルですすめる仕事をデータに基づき優先順位の判断をもってやること、地域包括ケアを念頭に予防・健康づくりを高めつつもハードルは高いが医療を抜きにできない状況にあること、地域特性として人とのつながりの連携にも特色があり人や生活を踏まえチームワークリレーで連携し、ひとつひとつを積み重ねながら組織としての仕事にしていくこと…がありました。決して目新しいものではありませんが、つつい後回しにしてしまいがちなところを先生のお話により強く意識させられました。

そして、施策の動向を把握し先を読んだ施策を企画、庁内・幹部・首長の調整を行い、健康担当・保険担当の縦割りの壁を超えてそれぞれの立場からできることを実施するというフレーズは、まさに今おかれている自分に言われたように感じました。

全国調査による群馬県の状況として、糖尿病患者医療費が高く新規透析導入患者数が多いという医療データ以外に、県糖尿病推進対策会議と連携していない理由として存在を知らないと回答した市町村が多いことや糖尿病性腎症重症化予防に係る保健指導の取組が低いこと、特定保健指導の実施率が低いこと、保険者努力支援制度交付額が低いことなどが示され、多くの宿題をいただいたような気がします。

講演前後の支部長挨拶からも、言われたことをするというより悩みながら仕事をするのがプロであり、先生からは住民からも理解が得られ優先順位を示せるための前段資料と「群馬は伸びしろがある」のエールをいただき皆で勉強するきっかけをもらった…という言葉がありましたので、ぜひ皆で前向きにすすめていけたらと思います。



編集後記



連日の猛暑で、熱中症により病院に運ばれる方や最悪命を落とされる方も多ようです。皆さん毎日お仕事が大変お忙しいとは思いますが、各自健康管理に十分気をつけ、暑い夏を乗り切りましょう。

現在様々な立ち位置で仕事をしている私たちの役割と責任は大きく、必要以上のストレスを感じながら毎日頑張っていると思います。良い仕事を続けるためには自分自身が元気であることも大事、あまりストレスを溜めないよう時々リフレッシュをしながら進めていきたいものです。今年度第2回の支部研修会として、12月に「対人援助職のアンガーマネジメント」と題した講演会を計画しておりますので、皆さん是非お時間のご都合を付けて、リフレッシュする気持ちでご参加いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。